

なお、効果が変動しやすい除草剤でもノビエ出芽前処理（移植直後～5日後）やノビエ2葉処理では、いずれも水深の高低差に関係なく極大の効果が見られた（デ-タ省略）。

以上のことより、ノビエに対する除草効果を安定させるためには、田面の均平化に努めることが重要であるが、もし、高低差がある場合は可能な範囲で深水状態とし、除草剤は移植後早い時期に散布すると効果は安定する。以上の試験1と試験2を取りまとめると、下記のとおりである。なお、下記の対応が不十分で、田面が高い所にノビエを始め、種々の雑草が多発した場合は、ノビエの葉齢が5、6葉以下の早い段階で中後期処理除草剤のクリンチャーパス、ワイドアタックなどで防除する必要がある。

まとめ

田面が高い所ではノビエに対する除草剤の効果が変動しやすい。

対応策として、①田面の均平化を図る。②田面の高い所まで十分に湛水できる水管理をする。などの耕種的方法が考えられる。

除草剤の使い方としては、

- ①一発処理除草剤の処理時期を使用基準内で早くする。
- ②田面の高低差が5、6cm程度ある場合、田面が高い所へ初期剤を散布し、後一発処理剤との体系処理を行う。
- ③処理時期が遅くなる場合はノビエに対する限界葉齢が大きい剤を使用する。

引用文献

- 大隈光善ら 2015. 田面の高低差が水稲用除草剤のノビエに対する除草効果に及ぼす影響. 第54回日本雑草学会講演要旨43.
- 小笠原勝ら 1996. 湛水深の増加に伴う数種水田用除草剤の選択性の変動. 雑草研究 41(1), 24-30.
- Sombat Chinawong 1992. Effect of Water Level on the Efficacy of Several Herbicides to Barnyardgrass. 雑草研究 37(3), 248-250.
- 住吉正ら 2007. アゼガヤ (*Leptochloa chinensis* Nees) の冠水に対する生育反応. 雑草研究 52(4), 185-189.
- 田中十城ら 2007. 除草剤の水田系外流出低減を目的とした水管理法-除草剤処理後の田面露出の影響-. 雑草研究 52(1), 28-35.

田畑の草種

疣草・疣取草（イボクサ）

（公財）日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

ツユクサ科イボクサ属の一年生草本で水田や畦、休耕田など水湿地に生える。高さ20cmから30cmほどで葉は細長く基部は茎を巻き、茎は枝を分けて地を這う。花は1cmほどで3枚の花被片の先端は淡紅色、基部白色の上品なグラデーションに染まる。朝に咲いて午後には萎れてしまう1日花である。

万葉集にこんな歌がある。

朝露に 咲きすさびたる 月草の
日くたつなへに 消ぬべく思ほゆ （巻10）

朝露を浴びて我が物顔に咲き誇る月草が、日が傾くにつれてしぼむように、日暮れが近づくにつれて、私の心もしぼんで消え入るばかりだ。そんななまで想っている私の元へ貴方はもう来てくれないのですか（きっと来てください）。

「月草」は「ツユクサ」であるという。確かに、「イボクサ」に比べると「ツユクサ」の方が花も大きく色も鮮やかで、畑や路傍など、見かけるところも多い。しかし、「ツユクサ」と同様に「イボクサ」も在来種で、万葉人の目にも留まっていたはずである。

水辺という限られた場所では咲かず、「ツユクサ」ほどにも目立たない。しかし、その上品さと可愛さと、朝に咲いて夕べに閉じる「イボクサ」を読み込んだ「恋」の歌があってもいいと思うのだが。

イボクサは今でも水田や畦で防除困難な害草として、ピンクの花を咲かせている。